

せいけん
詩集

第百三十三篇

作：近藤せいけん

「秋の気配」

涼しい風が 吹き始めた

田んぼを渡る風も 心地よい

夏の終わりが 近づいている

青い稲穂も 一面に

秋の気配が 漂い始めた

空が青く 高くなった

遥か大山に

かかり始めた 秋の雲

季節の変わり目

秋の気配 澄んだ空気

塩カヲトンボが 飛び

赤トンボも 群をつくり

田んぼを飛ぶ すすめも

どこか忙しそう

秋の気配

いつもの 自然が戻ってきた

